

夢を叶えるために

「はたらく」を応援します

ハローワークへ通うなど就職に向けて一歩踏み出した吉田さんに、今の気持ちを聞いてみました。

- Q1 なぜ就職しようと思われましたか？
A1 自立で、はたらくと思ったからです。社会人として責任もってやろうという目標で目指すように、就職したいと思いました。
- Q2 就職してからやってみたいことはありますか？
A2 車の免許を取りたいです。後は、けいたい(スマートフォン)とウォークマンが欲しいです。
- Q3 就職に向けて不安なことや心配なことはありますか？
A3 コミュニケーションが一番不安です。初めての人にどう話したらいいのか、考え込んでしまうことが心配です。
- Q4 「あおぞら工房」に手伝って欲しいことを教えてください。
A4 理解できるような話をしてほしいです。私はわかりづらい話だと理解しにくいので。



働いて自立することや社会人として責任を持つことは、とても素晴らしいと思います。ハローワークへ行かれてからの吉田さんは、大きな声で挨拶をしたり、自分の仕事にミスが無いように今まで以上に確認をされたり、困っている仲間を助けたりと、目に見えて「頑張っている」と私は感じています。

吉田さんが不安に思っていることがなくなるように、しっかりと会社の方と話をしていきます。一緒に就職に向けて頑張りましょう！

就労支援員 梶川 剛

就職して頑張るぞ！！



わたしは、マックスバリュ西条店につとめています。黒瀬特別支援学校を卒業をして、グループホームに入り、就職をして5年目になります。仕事の内容は、日用品や食品の品出し、リサイクルの回収をしています。

お客さんに「いらっしゃいませ」と、大きな声で言えるようになりました。「こちらですよ」と品物の案内もできるようになりました。でも、まだわからない時もあるので、担当の人に聞くときもあります。

わたしは、働いてお金をためています。ホームの職員さんに通帳を見せてもらい、いっぱい貯まっていたうれしかったです。お父さんが定年をしたときに、腕時計をプレゼントしたり、母の日にお母さんにバックをプレゼントしました。二人ともニコニコ、とても喜んでくれてうれしかったです。今度は、両親を旅行に連れて行ってあげたいです。それが私の一番の夢です。だから、もっと頑張りたいです。

ホームでは、同じくらいの年齢の仲間と話をするのが楽しいです。仕事から帰って、お風呂に入り疲れを取って、音楽をきいたり、テレビを見るのが好きです。わたしは、朝が苦手な寝過ごそうになるけど、支援員さんが起こしてくれるので助かっています。電車が遅れたときは、職場の人が西高屋の駅まで迎えに来てくれます。だから、遅刻はしたことはありません。これからもがんばります。

リサイクル回収など嫌な顔もせず一生懸命にして頂き、本当に助かっています。黒瀬特別支援学校から入社された後輩にも、自分のしている仕事をしっかりと伝えられています。高木さんのおかげで、後輩のみなさんも成長しました。
マックスバリュ店長より



店長さん、副店長さんと一緒に

西の池学園

法人内研修

「障害のある人たちの人権を護る」を開催

2月27日、広島大学大学院教授の横藤田先生をお迎えして、平成会職員の人権研修会を開催しました。

障害当事者でもあり、入所施設で生活した経験のある横藤田先生から「職員自身やその家族が、そこで生活してもよいと思える施設でありたい」というお話がありました。私たちの想像力を豊かにして、利用者の立場で施設の中身を検証していく必要があります。

また、横藤田先生は「障害のある人が『生きていく良かった』と自分の生きる価値を感じる事ができるようにすることが、究極の目的である」と言われました。

目の前の利用者との深い関わりによって、利用者のかけがえのない尊厳に気付き、利用者の人生に寄り添っていきける、そんな職員になりたいと思います。それが、私たち自身の「生きがい」につながるのだと思います。



副園長 田部 知紀

〇さんのこと～昼夜分離の取り組み～

昨年4月より、多機能型事業所あさひの生活介護を利用するようになった〇さん。西の池学園の生活では、周囲の反応を見ながらガラス窓を叩いたり、いつも落ち着きなく過剰にしゃべったり、テーブルに向かって作業することなど、とても想像できませんでしたが、通所開始から約1年。毎日「あさひ」と言いながら、行くのを楽しみにしています。昼と夜の生活の場を分けることで生活のリズムが生まれ、不安感も減ってきているのではないかと思います。

あさひへ通い、色々な経験を刺激を受けながら、「おやすみ」「パズル」など、話せる言葉も格段に増えました。自分の思いを正確に言葉で伝えることは得意ではありませんが、言葉とコミュニケーションの手段としてどんどん活用していくという思いが伝わってきます。

あさひでは、自立課題や紙すき用の牛乳パックのフィルムはがし等を行い、長い時には10分ほど集中して作業に取り組んでいます。日々、成長していく〇さんに嬉しい驚きの連続です。

これからも、笑顔で元気に通所してもらえようように、そして西の池学園が〇さんにとって安心して落ち着ける生活の場になるように、私も一緒に頑張っていきたいと思います。

支援員 萩原 聡美

多機能型事業所 あさひ

苦情は宝

2月、竹原で行われた職場のコミュニケーションについての講演会に、数名の職員が参加しました。講師の方から、「苦情は宝」。きちんと聞き、丁寧に対応することで他との差別化が図られ、組織は成長する。一般企業の苦情受付部門は今や最重要」との話がありました。開所してから1年。振り返ってみると、たくさんのご意見やご指摘がありました。真摯に受け止め改善できているのか・・・。



ある利用者の方(以下Aさん)から、「パソコンの仕事がしたい。仕事を取ってきてください」と訴えがありました。なかなかニーズを満たすような仕事を確保することのできない日々が続く、諦めたのか、「パソコンの資格を取りたいので、作業時間は自分で勉強します」とのこと。時が経ち、Aさんと「両親と面談する中で、「1時間で良いので、『あさひに来たら、これが自分の役割』というものが無いでしょうか？あさひに行く意味を実感させたいです！」と涙ながらに訴えられました。最終的に、職員の仕事の補助的なものを提供することで同意が得られ、現在エクセルデータの数値を入力する作業を行っています。

本人のニーズを充分満たしているとは言いがたいのですが、作業の進み具合の確認や、分からないことや不安なことがある時には時間をとり、思いを聞く機会をもち、信頼関係を少しずつ構築しています。「あさひに行く意味を実感したい」。

現在、あさひには50数名の利用者がおられます。障がいの特性も様々です。あさひには「自分を活かせる仕事や活動、そして場所がある」と、利用者そして職員も含めた全員が、同じように感じることのできる事業所を目指したいと思います。「苦情は宝」の本質が、少し理解できたような気がします。

施設長 鈴木 耕生

※誌面の写真、名前については、ご本人の同意を得て掲載しています。